



No.59 中國でない台灣ってあたりまえ？ 金門島・台灣海峡の危機目前



中国と台湾が別なのはあたりまえ？ いや、少なくとも国際社会ではそうではありません。

台湾も中国も独自の軍隊を持っています。

1945年まで日本が戦争をした相手は中華民国でした。それを率いる蒋介石の国民党軍が、毛沢東率いる共产党軍に敗れて1949年に中国大陆から台湾に逃れた後も、国民党軍はいずれ中国大陆に攻め上るつもりでした。「一つの中国」をめぐる内戦だったわけです。

現に1958年、中国大陆の目と鼻の先にある金門島で砲撃戦があり、台湾が防衛に成功しています。私が台湾にいた1965年頃はまだ戒厳令が敷かれていて、蒋介石総統のもと、大陸反攻・大陸光復を目指したスローガンが賑やかでした。

しかし中華人民共和国が成立し、国連の代表権を獲得するに至って、事実上国民党軍の大連奪還の夢は消えました。しかし「一つの中国」という観念は国際社会のコンセンサスとして残っています。

この国の形を大きく変えたのが李登輝総統でした。

人民解放軍と呼ばれる中国軍は、中華人民共和国を支配（領導）する共产党のための軍隊で、今日も共产党軍の本質は変わっていません。

一方中華民国のほうは蒋介石総統までは国民党軍だったわけですが、総統の直接選挙を行った1996年、一党独裁制から民主共和制に変わり、複数政党制による政権交代が行われるようになりました。この時、軍隊は国民党に奉仕する軍隊から政府の軍隊へ変質したのです。

そうなると今でも「一つの中国」の内戦と考えるべきのか、中国とは別の国として国際社会は台湾の現状を受け入れるべきではないのか…

香港へのあからさまな強権発動を躊躇しなくなった中国は、台湾への武力侵攻を現実的な選択肢に入れてきていると思われます。その時アメリカは正面から武力で向き合う覚悟を持っているか、それともカネのかかる揉めごとに御免だと逃げ出すか…

トランプの気まぐれか、国際コミュニティがどこまで本気か、中国はじっとみています。